

調査結果の概況（主なポイント）

■ 購入資金と平均年収（参考1）

○購入資金は、注文住宅^{※1}（4,472万円）が最も高く、注文住宅購入資金は、平均世帯年収^{※2}の約6年分

○購入世帯の年収は、分譲マンション（798万円）、注文住宅^{※2}（734万円）、分譲戸建住宅（701万円）の順に高い

○購入資金に占める自己資金の割合は、リフォーム^{※3}（75.8%）、中古マンション（51.3%）、中古戸建住宅（46.1%）が高く、分譲戸建住宅（26.4%）が低い

※1 三大都市圏で土地を購入した新築世帯。 ※2 三大都市圏の注文住宅取得者の平均世帯年収。 ※3 工事のために支払った資金

■ 居住人数（参考2）

○一世代あたりの平均居住人数は、注文住宅、分譲戸建住宅、中古戸建住宅で「4人」、分譲マンションで「3人」、中古マンションで「2人」、民間賃貸住宅で「1人」が最も多い

■ 住み替え・建て替え・リフォーム前後の延べ床面積の変化（参考3）

○従前住宅との比較において、注文住宅（新築）、分譲戸建住宅、中古戸建住宅への住み替えにより延べ床面積は3割以上広がっている

■ リフォームの動機（参考4）

○リフォームの動機は、「住宅がいたんだり汚れたりしていた」（46.5%）が最も多かったが、長期的にみて変化は小さい一方、「家を長持ちさせるため」（29.8%）、「さしあたり不満がなかったがよい住宅にしたかった」（14.4%）の回答は長期的にみて増加傾向